

だがしや楽校入門編 ～気軽な“みせ開き”でまちに出よう～  
第9回 10月1日（土曜日） 午前10時～正午 於：セッション杉並  
学習支援者 谷原博子（フリーアナウンサー）  
講座タイトル：地域活動を楽しむ先輩たちとの語り合い

学習支援者 谷原

今回は、すぎなみ大人塾の先輩にインタビューするということをやって頂きたいと思います。

インタビューする際のキーワードは

- 1「キッカケ」について、
- 2「面白かったこと」について
- 3「自分とだがしや楽校」

この三つのキーワードを使ってインタビューを構成して下さい。

聞き手は、その人の持ち味、人生がわかるようなインタビューの仕方を考えていただければと思います。

<インタビューその1>



聞き手 1

海外によく行かれているということですが、キッカケは、小さい時の家の環境があったのですか？

先輩 1

父が、1ドル360円時代に海外によく出かけるという環境はありました。また、兄達も仕事で海外に行っていました。私は、日本を知らずして海外を知る必要

はないというところはありませんでしたが、しかし、長年アメリカに住んでいた叔母の面倒（介護）をしないといけないという事が20数年前に発生したのです。それがきっかけになり、海外によく行くことになりました。先日、アフリカのケニア、タンザニアに行きましたが、多くの仲間ができて楽しむことができました。

聞き手 1

毎日心がけている事はありますか？

先輩 1

何か面白い事はないかな？といつもキョロキョロしています。

聞き手 1

だがしや楽校に参加する時に、夢や、ご自分でこうしたいという事をお持ちになってご参加なさったのでしょうか？

先輩 1

仕事を辞めて暇になった時、出来心で区報をみて申し込んでみました。だがしや楽校のネーミングの良さに心惹かれました。

聞き手 1

だがしや楽校の中心コンセプトの「自分を見せる」という事はどんな形で表現してどういう事をしたのでしょうか？

先輩 1

見せるものは、何もありませんが「好奇心を持ってきました！」と学習支援者（当時）の松田先生や皆さんに自己紹介をしたことを覚えています。

聞き手 1

参加して良かったと思う事をお聞かせ下さい。

先輩 1

今まで知らなかった杉並を知り、杉並の住み直しをしようと決心して参加しました。杉並のお友達をつくり、行く場所をつくろうというのが目的だったので、仲間ができた事が良かったと思っています。

聞き手 1

自分の中で、これからの夢を世界に向けて心がけていることはありますか？

先輩 1

全てを楽しむ為には元気でいなくてはいけない。それが基本なので元気でいる為の努力を心がけています。転ばぬようにすること、食事は3度摂ることなどです。

聞き手 1

これから先の希望などありますか？

先輩 1

1年1年の目標を立てています。即ち、1年単位で生きる。自分で得た知識を周りの人に使ってもらいたい。また、オリンピックに向けて英語の勉強をやり直している。困っている外国の方に道を教えられたらと思っています。

聞き手 1

先輩にとってだがしや楽校はどんな感じでしたか？

先輩 1

杉並の住み直しの原点だと思っています。だがしや楽校の卒業後、紹介して頂いた杉の樹大学に1年通って、そこから色々な趣味を持った方と出会う事になりました。その原点がだがしや楽校だと思っています。

<インタビューその2>

聞き手2

昨年、だがしや楽校に若くして参加したということですが、今までサークル活動のようなものに興味はあったのですか？

先輩2

この6年ほどはやった事がないです。

聞き手2

だがしや楽校に行こうと思ったキッカケはあったのですか？

先輩2

去年疲れすぎていた時期に散歩をしていて、荻窪の駅の北側の郷土博物館分館（弁天池公園）で、だがしや楽校のチラシを発見して楽しそうだなと思って、すぎなみ大人塾まつりを覗いたのがキッカケです。それで受講しました。

聞き手2

疲れすぎていたとのことですが、土曜日の午前中は寝ていたいと思わなかったのですか？

先輩2

逆に何か発散しないといけないなと思いました。5年位、杉並区に住んでいて、杉並に対して何もしていなかったなので、何かのきっかけになればいいなと思ったのです。だがしや楽校のコンセプト「自分みせ」の印象が心に残りました。

聞き手2

ちなみに杉並に引っ越してきたのは仕事の関係ですか？

先輩2

当時の仕事場（IT情報会社）が中野坂上だったので。

聞き手2

だがしや楽校に入ると、「自分みせ」ということを考えなくてははいけません。最初どう思われましたか？

先輩2

「自分みせ」という場面で、自分には何も見せるものはなかったと気づきました。仕事を勤め上げて定年退職した方が、様々な自分みせができる。それに対して自分が何をしたらいいか、何もないという劣等感がありました。



聞き手2

そんな中、1年やられて一番印象に残っていることはありますか？

先輩2

2015年7月に、杉並第七小学校、2015年11月に特養ホームに行ったことが経験になりました。小学校に20年位行ったことがなかったので新鮮でした。特養ホームも行ったこともなく、そこで人々がどう生活しているか知らなかったので自分の中で興味深かったです。特養ホームでは、タブレットを活用した「自分みせ」をしました。

聞き手2

生活は今までよりいいイメージで変わりましたか？

先輩2

他の受講生から「人生の棚卸」という言葉を聞いて、自分もやりたいと思って、転職をしました。地域活動に関しては杉並に限ったことではないので、渋谷で子供とご飯を食べようという企画に誘われて参加しています。学生の相談を受けて、学園祭の広報も手伝っています。

聞き手2

昨年これに参加されて、転職されたキッカケになったのですね。逆に、だがしや楽校の嫌だったところがありますか？

先輩2

朝が早い事くらいかな？デメリットは。寝ていたい時があるけど、2週間に1回ぐらいなら丁度良いです。それと、参加する人は、みなさん我が強い方ばかりでしたが、主張がないと話がすすまないの、それも良い事だと思います。

聞き手2

最後の質問です。なぜ今年はだがしや楽校に入らなかったのですか？



先輩2

転職で忙しかったのと、早々に色々声がかかっていたこともあったので、卒にはまらずにやってみようかなと思ったので、入っておりません。

受講生からの質問

今まで経験を積んできた諸先輩方に敬意を表します。どちらかというと、仕事のキャリアアップに取り組む年齢(30代)だと思いますが、そんな中でだがしや楽校コースに参加した理由を聞かせてください。

## 先輩2

それまでは、自分の仕事の為のキャリアアップはしてきました。地域活動をしたことは一切なかったんですけど、自分の為に一旦見つめてみるのはありかなということで参加しました。地域活動も自分の為になると思うと、意外とやっけていけます。今までの人生で、7、80歳の方とお話しする機会もないので価値観の違いを突きつけられてプラスになっていきました。参加することがキャリアアップだったのかも知れませんね。ボランティアと思って参加すると絶対失敗すると思いました。自分の為にやっていると思うと、スッと入りやすいと思います。そこで納得しないと参加もしずらくなるので、勿体ない気がします。

## &lt;インタビューその3&gt;

## 聞き手3

だがしや楽校に参加された時の生活は、どのような状態でしたか？

## 先輩3

63歳ですけど、子供も育ちあがって、おかし作りが好きでそれを仕事にもしていたのですが、20年、杉並にいながら、地域のつながりが無いなと思って、たまたまチラシをみて、だがしや楽校のネーミングに惹かれて参加しました。自分が60歳を過ぎた時に近所の子供達に何が出来るかって思った時に、だがしや楽校に出会いました。



## 聞き手3

「自分みせ」をやってみてどうでしたか？

先輩3

最初はお金をとってはいけないと言う事でシャボン玉をしました。2回目は米麴から作る甘酒を無料で配ってお子様連れのお母さんがすごく興味を持ってくれて、反響があったのですごく楽しかったです。

また、だがしや楽校の準備を試行錯誤しながらしてきて、終わってから繋がりを楽しむようになりました。

聞き手3

「自分みせ」の準備段階ではみんな1つの方向ではなかったけど、終わったら仲良くなっていたという事ですか？

先輩3

だがしや楽校自体が一つの事を協力して立ち上げていくのではなく、色々な能力を持った人たちが緩く繋がりながら、自然発生的に何かでてくるという感じを受けました。

聞き手3

学生さんと違って皆さん大人なので、この辺で妥協しようという所でうまく自分を納得させてだがしや楽校のイベントを成功する体勢ができたということですか？

先輩3

当日できたって感じですよ。直前に色々な助けがあって、当日も声をかけてもらってその協力体制がすごかった。それが大人って感じでした。だから準備は全然できてないけど、できちゃった、というのがすごい。

聞き手3

一つの事を協力してみんなで仕上げる事で、大人なのだけど、更に成長した部分があるのですか？



先輩 3

人の助けってありがたいな、と思いました。

聞き手 3

だがしや楽校を経験して、人見知りが出たと伺いました。その後の人生を大きく変えたというような事はありますか？

先輩 3

それはありますね、60歳を過ぎてまで人見知りを持ち続けちゃったという事も恥ずかしくて隠していました。隠しているから、社交的に見せていたりしました。だから、外に出ても、帰ってから疲れていたのです。今は大勢の中に出ても、疲れていません。毎回違う人が来ていて、名前と顔を覚えるのが必死で、そういう事をしているうちに治っていきました。

学習支援者 谷原

先輩 3 さんは更に、次の活動として、子どもに繋がりたいという事で、中学生の学習支援を始めました。わからないところをその生徒に寄り添いながら指導し、高校受験に成功したのですよね？その体験談を聞かせてください。

先輩 3

これからの人の役に立ちたいと思っていたので、小学生レベルの勉強を見てあげられたらいいなと思っていたのです。周りの大人がちょっと見てあげるだけで違うのだな、という経験をしました。

聞き手 3

元々お菓子作りから始まって、だがしや楽校のネットワークを通じて学習支援に繋がって活動の幅が広がっているのですが、ギターも始められているそうですね。

先輩 3

目的は、NPO法人すぎなみのたね（※）で、みんなで歌を歌えたらいいねという事で、伴奏があれば歌えるかなと思って始めました。

※：すぎなみ大人塾の卒塾生が設立した NPO 法人

受講生からの質問

元々人に教える事をなにか勉強されていたのですか？

先輩 3

教える事は、昔は好きだったけど、得意ではなかったです。教えるという事よりも、寄り添うという事ですかね。どこがわからないか、わからない所と一緒に発見するスタンスです。



社会教育センター 中曽根

昨年度もこういった形で卒業生のインタビューをして、いい話を聞かせていただいているなと思っております。どう生きて行くか、どの年代でも考える。そういった時に外の人との関わりで新しい気づきで、思わぬ展開があるのだなと思いました。

学生（社会教育センターの実習生）

皆さんのバイタリティあふれる活動を聞いて、勉強になりました。

社会教育センター 遠藤

これからもだがしや楽校を地域でやっていくに当たっては、自分の持っている物を大事にしていきながら、そこで出会った人の持っているものや好きな物と関わって首を突っ込んでいかないといけないなと思いました。

学習支援者 谷原

今回は2週間後になりますが、講座の後半戦に向けまして作戦会議をしたいと思います。よろしくお願いいたします。